【ねがいましては】

令和元年７月２５日　　*KYOWA SCHOOL*

第３４５号

「母の教え」

PHP７月号に、俳優でタレントでもある柳沢慎吾さんのインタビュー記事がありました。その中の母がいつも語って聞かせていたことば、『常に笑顔でいなさい。笑顔でいると、人が集まってくる。仏頂面していても人は寄ってこないよ』だったそうです。そんなお母さんのお仕事が青果店。ご両親で営んでいたそうで、どんな時でも母は笑顔で働いていたそうです。たとえ高熱を発していても・・・。そのような母を慕って、多くのお客さんが足を運んだそうです。

柳沢さんは、「そんな母の教えが僕の根っこにあります。」と、言い切っています。

そしてもう一人、物まね芸人のコロッケさん、彼の書いた本、『母さんのあおいくま』より、あせらない・おこらない・いばらない・くさらない・負けない、この５つの頭文字をとって『あおいくま』だそうです。今でもその母の教えはコロッケさんにつながっているようです。

母親が日頃、人の悪口や批判を重ねてしまうような、そんな家で育っているお子さんは、ひょっとしたら学校でもどこでも、気に入らない人の悪口や批判を言っているのかもしれません。

母親が日頃、上から目線を感じさせるような言動は慎みなさい。と言っていれば、おそらく、何事にも謙虚で控えめな子が育つのかもしれません。

何よりも言うだけではない、親がその通り、自らを持って実行されていることが必要だと思います。きっと、柳沢慎吾さんも、コロッケさんもそんな母の姿を見続けていたのでしょう。

ことばもそうですが、子にとっては母の生きざまそのものがお手本ということになります。

であれば、最近特に気になって仕方がないこと２つ、まず１つ目、車を運転していて気になって仕方がない光景があります。ママチャリに乗りながら「スマホ」・・・。危険を通り越えている状態・・・。そんなお母さんを後部座席で見ているお子さんは、それが当たり前だと見ながら成長していきます。ひょっとするとお子さんも成長の暁には、自転車こぎながらスマホ・・・かも。

２つ目、多くのお子さんに見られる現象です。間違えを極端に恐れすぎるお子さんが多いのです。『間違えたらどうしよう』『できなかったらどうしよう』が、自らの動きをピタッと止め、固まった状態が続く・・・。周りの目を気にするあまりに起こる心理です。

次に登場するのが、川田裕美さん（フリーアナウンサー）、この方の体験談は、母の教えではないのですが、「～たい」「～たい」という、自分のちょっとした『欲』がらみの時と、そうではないときのエピソードになっています。テレビ局の入社試験のときに、不合格通知ばかりだったそうです。「賢く思われたい」「ほかの学生に負けないように、うまくしゃべりたい」などと、自分をよく見せようと、カッコばかりつけていたそうです。無理しすぎというやつですね。もちろんこの行動の裏には「失敗したらどうしよう」という心理はあったはずです。

ところが面接官を前に、フリートークを強いられ語り始めるうちに、過去の想い出がリアルによみがえり、思わず感情が吹き出て「バカヤロー」と叫んでしまったそうです。面接はそれで打ち切り、結果、合格したそうです。

自分をよく見せようとせず、失敗など気にすることもせず、ありのままの自分を精一杯に出したその瞬間、合格がやってきたのです。周りの目などどうでも良い、今の自分を精一杯に出し切っていた瞬間があります。

川田さんの言です。「その後も数えきれないほどの失敗をしましたが、そうやって何度も失敗する中で、身にしみてわかってきたのは、『自分は、かっこつけても仕方がない』ということです。」・・・中略・・・「『今の私には、できないことがたくさんある』と、等身大の自分を受け入れること。わからないことがあったら『知りませんでした。教えていただけますか』と聞くようにしています。」

柳沢慎吾さんは、お母様より『笑顔』の大切さを学びました。コロッケさんは、お母様より『あせるな・おこるな・いばるな・くさるな・まけるな』という謙虚さを学びました。川田さんは、『周りの目を気にしない』を学びました。

ご３人ともに、謙虚に生きなさいということが共通しているようですね。その謙虚さというものが、実は質問できるにつながると思うのです。

ご家庭で、お子さんから質問されることはあるはずです。特にお子さんが小さい頃に「ねー、なんでー。」と、その時についつい返すことば、「お母さん、今忙しいからあとでね。」これって本当に忙しいのでしょうか。かなりな確率で「私の無知がバレたらどうしましょう。」（ごめんなさい）が、入っているように思われます。ご自身の小・中学校時代の「成績」がバレたらどうしよう・・・。明らかにお子さんの目線を気にされています。

笑顔で、「何なに、お母さんねー今の質問わからないのねー。だから一緒に調べてみよう！」「うわー、わからないわ。一緒にやろー！」などと、お子さんとひとつになってあげることだと思います。どんなに忙しくても、「じゃー、〇時になったら調べてみよーね。」と、一緒になる。ここへ通う子の中に、東西南北がわからない子がいます。でも、もし、お母さんになったら、一緒に学んであげてください。そうなれば、「こわいよー」の子はいなくなるかもしれませんね。

なんでもすぐに聞けちゃう子、それこそ学びが楽しくなる子ではないでしょうか。